

萩生地区 地区別計画書

◇地区別計画のキャッチフレーズ 『我・和・輪』 おいおいと

- ◇地区の将来像
- ①萩生城址を象徴とし伝統文化の息吹が溢れ、誰もが夢に挑戦できる賑わい溢れる地域
 - ②地域内循環を意識し、地産地消や手技の継承により新たな所得を産み出す地域
 - ③未来に向かって安心安全な暮らしの確保と環境を理解した暮らしの地域的展開

◇地区の宝物 荒獅子祭り、自然（田園散居集落・水・森）、
どんでん平ゆり園、萩生城址、子どもたち

◇次代に残したいもの 荒獅子祭り、どんでん平ゆり園、小学校、萩生城址、
自然（田園散居集落・水・森）、伝統文化

■ 地区の現状と課題：

- 1 国勢調査による萩生地区の人口は、昭和35年に2,358人、平成22年（速報値）では1,711人と、50年間で647人減少した。減少傾向に歯止めがかからず、定住対策や後継者対策が必要です。
- 2 萩生地区は、近年の20年間で振り返れば、雇用促進住宅（現在の定住促進住宅「いいでハイツ」）、民間活力によるアパート、ケアハウスめぎみの里、分譲住宅地が整備され、住環境が整ってきているものの、それでも人口減少が続いていることについて十分考える必要があります。
- 3 萩生城址には、昔は萩生小学校があり、学校や周辺の自然の中に、子どもたちの息吹が感じられました。これからは、萩生城址を拠点としたにぎわいの拠点づくりを進めることが大事です。また、諏訪神社や岡八幡神社の荒獅子祭りや諏訪神社神輿渡御行列などの心躍る伝統を引き継ぐことが大切です。さらには、歴史文化、暮らしの知恵が忘れられようとしている中で、萩生の文化として継承していく必要があります。
- 4 萩生には、にぎやかな町並みがありました。集落の中で、井戸端会議をしたり、子どもが泣いたり笑ったり、若者が威勢よく喧嘩したりしている風景がありました。今は、そのような様子はほとんどみられません。わくわくする町並みや子どもや若者、そして高齢者まで多世代の人が集まる機会を作らなければなりません。
- 5 地域でものをづくり、地域からものを買うことが求められます。さらには、昔の手技を見直し、歴史と暮らしに培われた仕事づくりにつながって欲しいものです。仕事が少ないことは、定住環境としては大きな課題です。
- 6 萩生地区には「どんでん平ゆり園」があります。季節的な花公園であり、年々お客さんも減少しています。年間を通じ利用できるアイデアが必要です。また、田園散居集落景観を見ることができ西山の活用もあわせて考える必要があります。
- 7 地区内を見回してみると、後継者のいない世帯が相当あります。高齢者世帯や一人暮らしの方が安心して生活できる地域づくりが必要です。また、後継者がいないということは、若い世代の人が少なくなっていくということです。若い方に将来のパートナーができて、気軽に交流できる地域となる必要があります。
- 8 豪雪地帯で、雪処理対策は冬の数ヶ月を暮らしていくために大切なことです。集落形態によって、雪処理に苦勞している方が大勢います。また、近年の異常気象や地区内での施設整備の変化もあり、ゲリラ豪雨等により、水害になる場合があります。
- 9 大きな災害を経験し、暮らしや生産活動におけるエネルギーの必要性を改めて痛感しました。化石燃料に依存することなく、自然エネルギーの利用や環境配慮型の暮らしを考える必要があります。
- 10 萩生地区には、昔ながらに居住している方、また、地区外から転入された方、一時的に居住されている方など、多様な住まい方をされています。萩生を誇りに思い、みんなが地区を盛り上げるため気軽に話ができて、交流できる環境が大事です。

■ 10年後の将来ビジョン：

①萩生城址を象徴とし伝統文化の息吹が溢れ、誰もが夢に挑戦できる賑わい溢れる地域

- 萩生城址を核とした地域づくり
 - ・萩生城址及び周辺の整備
 - ・萩生城の歴史を体感できる地域
- 歴史文化と出会う
 - ・荒獅子祭り、子ども神輿の賑わい
 - ・継続継承
 - ・農機具や昔の写真の展示の場
- 若者の交流が盛んな地域
 - ・婚活支援
 - ・集いの場の創設（酒飲み、お茶 etc.）
- 交流により安心や楽しみを分かち合える地域
 - ・一人暮らしを考慮し、隣との往来を密にし共生
 - ・いつでもお茶のみができる地域
 - ・散歩が楽しい地区（子どもの声）
 - ・散策ルートづくり、皆で歩くイベント

②地域内循環を意識し、地産地消や手技の継承により新たな所得を産み出す地域

- 地域で儲ける
 - ・農林産物を活用して加工販売
 - ・宝物案内養成
- 雇用場の確保
 - ・雇用の場がある
- 地区内循環の地域
 - ・地区内で生活全てをまかなう（車を使わない）
 - ・地区内で農産物がまかなえる
 - ・食べたい農産物が、地区内でいつでも得られる暮らし
 - ・地元の産物（炭など）を活用する地域に

③未来に向かって安心安全な暮らしの確保と環境を理解した暮らしの地域的展開

- 安心な暮らしができる地域
 - ・暮らし、子育てにコストがかからないまち
 - ・車を使わずに買い物ができる暮らし
 - ・萩生町の整備と商業活性化、人が通れる
 - ・また散歩できる通り
 - ・空き家の活用
 - ・農村環境の適正な維持
 - ・おいしい水を飲みたい
 - ・除排雪（融雪溝、流雪溝 etc.）
- 子宝の里（子どもの声が聞こえる地域）
 - ・地区内での子育て支援（ベビーホーム等）
 - ・イルミネーションが輝く地域
- 環境配慮型暮らし
 - ・共同発電施設（隣組単位で風力等）
 - ・自然環境を活かしての集団生活場の確保
 - ・化石燃料を使わない暮らしの普及

■ 将来に向けた重点事業

行政主体の事業	地域主体の事業
<p>1 萩生城址公園周辺にぎわい再生構想の実現</p> <p>かつての萩生城と萩生商店街を思い起こさせる地域資源の保全活用による集落整備を行う。 また、人が暮らし続けることを十分考慮した集落道の整備や雪処理対策を含めた環境整備を進める。</p>	<p>1 お祭でのにぎわいづくりと、歴史文化への出会い・継承に向けた取組</p> <p>荒獅子まつり、子ども神輿を継承し、盆踊りの復活などを行う。 また、萩生城址周辺整備推進プロジェクト等を行政と連携して行い、それらを核として地域づくりや、散策ルートづくりを行う。</p>
<p>2 どんでん平ゆり園と西山の利活用</p> <p>どんでん平ゆり園の賑わいの拡充、そして年間を通じた活用と、西山一帯の里山を活用した環境配慮型の取組を行う。</p>	<p>2 地域主体の『地域の意見を聞き情報交換できる仕組みづくり』</p> <p>住んでいる人や萩生地区に関わる人の、地域に対する多様な視点からの生の声を聞いて地域づくりに反映し、よりよい地域をつくる仕組みを構築する。</p>
<p>3 安心安全な地域環境整備</p> <p>どのような季節、そして、急な天候の変更に對しても対応できる環境整備を目指す。（排水路整備、雪処理施設設備の整備、防災環境の充実）</p>	<p>3 こだわりの産業づくり</p> <p>地区内での暮らしをすべて地産地消でまかなえることを目指すと同時に、あわせて、地区外に對しても積極的戦略的にPR販売し所得向上を目指す、萩生地区地産地消向上作戦、手作り生活文化発掘プロジェクトを実施する。</p>

□5年間のうちに取り組むアクションプラン

地区が主体となることができる活動 テーマ・内容	実施 時期	地区での 主体づくり	いつまでに何をする
<p>『実際に地域を まわってみましょう!』</p> <p>地域を知るには、現場を見ることが必要です。まずは、地域を点検し診断しましょう。そして、萩生地区の将来を考えましょう。また、あわせて地区内の施設の点検検証も行ないます。</p>	<p>平成 23 年度 ～ 平成 27 年度</p>	<p>地区協議会 など</p>	<p>第1段階 ①萩生地区全体を点検します。 ②問題や改善箇所を明らかにします。</p> <p>第2段階 ③多くの参加で点検活動を行います。 ④多様な参加者の視点により、計画に反映させます。</p>
<p>『宝物や歴史を継承します』</p> <p>地域の宝物を確認し、マップを作成し広く周知します。 また、地域の歴史や方言、さらには屋号などについても継承します。</p>	<p>平成 23 年度 ～ 平成 27 年度</p>	<p>地区協議会 など</p>	<p>第1段階 ①地域の宝物を見つけます。 ②萩生宝物マップを作成します。 ③歴史・方言・屋号などに詳しい方の話を聞いたり、資料を収集します。</p> <p>第2段階 ④地域資源の研修会を開催します。 ⑤宝物マップを継続して更新します。</p>
<p>『体験やウォーキングの メニューをつくり実践します』</p> <p>体験やウォーキングのメニューを作成します。特に、宝物を巡るおすすめ周遊コースを設定します。 メニューの中から、萩生まちめぐりウォーキングを実施し、萩生の四季を感じていただきます。</p>	<p>平成 23 年度 ～ 平成 27 年度</p>	<p>地区協議会 など</p>	<p>第1段階 ①地域の宝物をチェックし、体験やウォーキングメニューを実施します。 ②メニューPR用パンフレットを作ります。</p> <p>第2段階 ③新たな体験やウォーキングメニューを作ります。 ④体験メニュー実施のための整備を行います。</p>
<p>『萩生城址周辺整備推進 プロジェクト』</p> <p>萩生城址周辺の整備手法を行政と協力し検討します。また、萩生城址の環境や萩生城にまつわる歴史を知り、周辺環境を維持する取組を進めます。</p>	<p>平成 23 年度 ～ 平成 27 年度</p>	<p>地区協議会 など</p>	<p>第1段階 ①萩生城址周辺を点検します。 ②萩生城址周辺整備の意見を取りまとめ、行政と情報交換します。</p> <p>第2段階 ③萩生城址公園の清掃活動を行います。 ④萩生城址でのイベントを検討します。</p>
<p>『にぎわいプロジェクト』</p> <p>萩生地区のにぎわい創出をめざし、商店等の皆さんと協働による取組を進めます。商店会の皆さんの話し合いを基本に、多くの方の参加による情報交換を進め、事業を創り上げます。失敗を恐れず、にぎやかに祭りやイベントに取り組みましょう。 また、地域の宝物であり伝統的な荒獅子祭りを後世に引き継ぎ、よりにぎわいが創出できる祭りとしていきます。</p>	<p>平成 23 年度 ～ 平成 27 年度</p>	<p>地区協議会 など</p>	<p>第1段階 ①宝物のお祭りをみんなで継承します。 ②商店会や、多くの人の参加による話し合いをします。 ③話し合いから、できそうなことを選択します。</p> <p>第2段階 ④祭りやイベントを企画実践します。 ⑤新たな企画の際に、異なる視点の都会の人などに参加してもらうことも検討します。</p>

取り組んでいくアクションプラン

Ⅲ地区別計画

地区が主体となることができる活動 テーマ・内容	実施 時期	地区での 主体づくり	いつまでに何を する
<p>『手作り生活文化発掘プロジェクト』</p> <p>昔、暮らしに必要な物を提供してきた手技や、暮らしに培われた伝統文化・慣習を発掘し仕事への転換を試みます。</p>	平成23年度 ～ 平成27年度	地区協議会 など	<p>第1段階</p> <p>①昔の手技や伝統文化を発掘します。</p> <p>②伝承している人から詳しく聞きます。</p> <p>第2段階</p> <p>③手技等の継承のための取組を進めます。</p> <p>④利活用の拡充を検討します。</p>
<p>『萩生地区地産地消 向上作戦の実施』</p> <p>地産地消を意識するとともに、直売所などでの購買を進めましょう。さらに、地域で儲けることを目指し、農畜産物の生産・加工・販売の取組を進めます。また、高齢者世帯へのお弁当提供や婚活料理教室を検討します。</p>	平成23年度 ～ 平成27年度	地区協議会 など	<p>第1段階</p> <p>①直売所や加工所の研修会を行います。</p> <p>②萩生地区で、どのような加工品に取り組んでいくか方向性を決めます。</p> <p>第2段階</p> <p>③農産物加工所設置をめざします。</p> <p>④PR販売方法を検討します。</p>
<p>『どんでん平ゆり園活用 プロジェクトの実施』</p> <p>「どんでん平ゆり園」の魅力向上を図るため、周辺やアクセス環境、四季の変化も含め活用できる方策を検討します。</p>	平成23年度 ～ 平成27年度	地区協議会 など	<p>第1段階</p> <p>①どんでん平ゆり園と周辺における魅力を探求します。</p> <p>②新プロジェクトを行政に提案します。</p> <p>第2段階</p> <p>③実施可能なイベントを取り組んでみます。</p> <p>④現地でのイベント的意見交換会を楽しく実施します。</p>
<p>『井戸端会議・ 一服飲みプロジェクト』</p> <p>地域全体が笑顔でふれあえるため、井戸端会議の場を設置したり、かあちゃん、ばっちゃんがたがよくやる一服飲みができる環境を整えます。</p>	平成23年度 ～ 平成27年度	地区協議会 など	<p>第1段階</p> <p>①隣近所にお話をしに行こう。</p> <p>②ちょっと足を延ばして散歩しよう。</p> <p>③行き交う人と話ができる環境にしよう。</p> <p>第2段階</p> <p>④井戸端会議ができる環境を検討しよう。</p> <p>⑤地域、一服飲みの日を設定しよう。</p>
<p>『美しい景観の保全』</p> <p>田園散居集落景観など美しい景観資源を後世に引き継ぐ取組をします。誇れる自己庭園（プライベート・ガーデン）を募集認証し、地域全体が美しく心地よい農山村ガーデンとなる地域づくりを進めます。</p>	平成23年度 ～ 平成27年度	地区協議会 など	<p>第1段階</p> <p>①景観の展示を多くの場所で行います。</p> <p>②実際に、田園景観が望める展望台を回ってみます。</p> <p>③屋敷林や素晴らしい庭なども検証します。</p> <p>第2段階</p> <p>④新たな農山村景観の地区内パンフレットをつくります。</p> <p>⑤景観保全助成制度の検討を行います。</p>
<p>『プロジェクト企画提案』</p> <p>多くの声がプランに反映でき、情報を発信できる仕組みが必要です。そして、地域の状況を、住んでいる者や地区に関わる者が診断し、プロジェクトを企画提案する方向が望まれます。</p>	平成23年度 ～ 平成27年度	地区協議会 など	<p>第1段階</p> <p>①常に意見交換ができる環境を考えます。</p> <p>②地区の多様な活用から、常に課題を抽出し、課題の整理を行います。</p> <p>③情報のキャッチボールができる環境を整備します。（地域づくり情報誌発行等）</p> <p>第2段階</p> <p>④プロジェクトを検討する意見交換の場を持ちます。</p> <p>⑤プロジェクトに練り上げます。</p>

取り組んでいくアクションプラン

Ⅲ地区別計画